

<b>銅水和剤</b> <b>ドイツボルドー A</b>	<b>取扱メーカー：</b> 北興  <b>原体メーカー：</b> ——
<b>成分：</b> 塩基性塩化銅〔銅〕……………84.1% （銅として……………50.0%）	<b>性状：</b> 青色水相性粉末45μm以下 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

### 【品目特性】……………

- 水に不溶性の銅化合物を対象作物上に微粒子として固着させ、雨霧などの炭酸水及び植物や病原菌の分泌する有機酸によって徐々に分解され殺菌力の強い銅イオンを溶出する。この銅イオンが菌の細胞内に浸透して原形質膜を破壊したり、酵素活性を阻害することによって殺菌する。
- 保護殺菌剤で胞子発芽、菌糸発育、呼吸を阻害する。
- 化学的に安定で、広範囲の病害に効果を示し、残効性もある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 防除適期は作物により多少異なるが、基本的には発病前～発病初期の防除を主体とし、病勢に応じ、7～10日間隔で散布する。
- 葉の表裏に十分薬液が付着するように散布する。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- ほうれんそうに使用する場合、収穫間際の散布は留意する（収穫物の汚れ）。
- 共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。
- 適用作物（茶、雑柑、かんきつ、きゅうり、メロン、レタス、非結球レタス、キウイフルーツ、キャベツ、はくさい、あぶらな科葉菜類、くり）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 適用外作物（核果類）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

### 【安全対策上の注意】……………

- 稲に使用する場合、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。
- 魚類に影響を及ぼすので、使用時は注意。甲殻類、藻類に影響を及ぼすおそれがあるので使用時は注意。
- 散布後は水管理に注意する。
- 共通注意事項6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。

【適用と使用法】 .....

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	銅を含む農業 の総使用回数		
稲	墨黒穂病 稲こうじ病	2000 倍	60～ 150 ℓ	出穂 10 日 前まで	—	散布	—		
か ん き つ	そうか病 黒点病	400～ 800 倍	200～ 700 ℓ	—					
	かいよう病	1000～ 2000 倍		—					
キウイフルーツ	花腐細菌病	1000 倍		休眠期～ 蕾出現前					
く り	かいよう病	500 倍		—					
	実炭疽病			果実肥大期					
野 菜 類	軟腐病 べと病	500～ 1000 倍	100～ 300 ℓ	—					
ト マ ト ミニトマト	疫病 斑点病 葉かび病	500 倍							
	き ゅ う り							斑点細菌病	
	レ タ ス 非結球レタス							斑点細菌病 腐敗病	500～ 1000 倍
メ ロ ン	斑点細菌病								
た ま ね ぎ	白色疫病	500 倍						—	
う ど	黒斑病							根株養成期	
アスパラガス	茎枯病							500 倍	100～ 500 ℓ
キ ャ ベ ツ	黒腐病 黒斑細菌病	500 倍						100～ 300 ℓ	—
ばれいしょ	疫病								
か ん し ょ	斑点病								
いんげんまめ	かさ枯病								
は つ か	さび病								
と う が ん	果実汚斑細菌病								
て ん さ い	褐斑病								
ホ ッ プ	べと病		1000 倍						
茶	炭疽病 もち病 網もち病		500 倍	200～ 400 ℓ					
	赤焼病	500～ 1000 倍							
	ひまわり(種子)	空胴病	500 倍					100～ 300 ℓ	収穫 14 日 前まで
ひ ま わ り				—					
樹 木 類	斑点症 (シュードサーコスボラ菌)	800 倍	200～ 700 ℓ	発病初期					